令和５年度　第１回静岡県立浜北西高等学校学校運営協議会　議事録

１　日時　令和５年５月 26 日（金）　午後１時 30 分から午後３時 30 分まで
２　場所　静岡県立浜北西高等学校　会議室
３　出席者（委員、敬称略）
　梅林欽哉（元小学校・中学校管理職）、阿部卓也（静岡県議会議員）、
　横田みどり（横田整形外科婦長）、中津川智美（常葉大学教授）、
　金島徹（浜北区調整官）、森下晃行（農業起業家）、
　明保晴香（浜北国際交流協会理事）
学校関係者
　邑田聡一（校長）、戸田敬之（副校長）、伊藤正徳（教頭）、
　山田哲也（事務長）、
４　議事
(1) 開会
(2) 校長挨拶
(3) 学校運営協議会委員自己紹介・学校関係者自己紹介
(4) 授業参観
　学校運営協議会委員からの以下のような意見があった。
・生徒たちが集中して授業に取り組んでいる。
・先生たちが PC を活用してわかりやすい授業を展開している。
・図書室が書店のように見事に整理されており、生徒たちにとって使いやすくなるような工夫がなされている。
(5) 令和 4 年度学校経営報告及び令和 5 年度学校経営計画（副校長）
(6) 令和 5 年度グローカル・ハイスクールの取り組みについて（副校長）
(7) 部活動報告及び新聞記事について（教頭）
(8) 本校の課題や今年度の取り組みについて（校長）
(9) 協議
　校長から示された目標「一段高い進路希望の実現」について意見や質問が寄せられ、浜北西高校の方向性という大きなテーマで話し合うことができた。
・現在の中学生や高校生の進路は、通信制とかいろいろある。浜北西は進学を目指すのか。今は多様性の時代。浜北西は方向性がはっきりしていない。どういう生徒に来てもらいたいか、どういう生徒を育てたいか。通信制（に行く生徒）は通信制に任せて、浜北西はどういう学校を目指すのか。
・オンライン授業で成り立つ時代だから、通信制に行く生徒が増えている。
・Ｎ高校は特化した教育。「東大へ行く」、「バレリーナになる」など様々な進路に対応している。

・浜北西にくる子は、浜北が好きだから、親も浜北西出身だから、浜北にいたいからなどとても地元意識が強い。だからといって、ずっと浜北にいるのではなく、1 回外を見てきた方が良い。今の子たちは自分たちのときとは違い、コロナで外を見るチャンスが無くなった。外を見てみようと言いたい。
・生徒や保護者にアンケートで意識調査をしているので、それらの結果を分析して学校の方向性を決めたらよい。
・昔は「一段下げて安全な進路に行きなさい」という指導だった。「一段高い」というが、子どもたちは何を目指すのか。地元に残りたい、地元で頑張りたいという子は素晴らしい。国公立大学の数を増やせばいいのか。それは先生たちの願いなのか。子どもたちはどう思っているのか。
・ここに来る子たちや親にとって、ここは「いい湯だな」になっている。
・「一段高い」とは何を言うのか。地域志向か、学力（国公立）志向か。
・「人との出会い」が一つのキーワードではないか。私大の先生を呼んだりして、いい先生との出会いが一つのきっかけになってくれれば。
・学校は安定の型を教えなきゃいけない。そこからさらに、型を破れという選択肢を植え付けたい。
・やはり大事なのは授業だと思う。高校の先生だから、生徒たちが食いついてくる（興味・関心を持つ、新しい価値観を見いだせる）授業がいるのではないか。生徒たちが抽象的なものに興味を持つ授業をしてほしい。
・ウチの生徒は内向き（地元志向）だと先生たちが思っている。先生たちには、何かのきっかけで変われるよっていうスタンスでいてほしい。有名な大学の先生を招いても生徒たちにとっては自分との距離が遠いのではないか。大学に行っている卒業生の話を聞いたりする方がいいのではないか。

(10) 閉会